



教育力向上福岡県民運動

キャリア教育

～小・中学校の取組～

平成23年7月



平成16年1月に文部科学省から「キャリア教育の推進に関する総合的調査研究協力者会議報告書」が公表されて以降、キャリア教育の推進が図られています。さらに、平成23年1月に中央教育審議会から「今後の学校におけるキャリア教育・職業教育の在り方について」が公表され、これまでのキャリア教育の在り方の見直しから、3つのキャリア教育充実のための方策が挙げられました。その1つに、「教育方針の明確化と教育課程への位置付け」として、

キャリア教育は、教科・科目等の全体を通じて取り組むものであり、単に特定の活動のみを実施すればよいということや、新たな活動を単に追加すればよいということではない

ということが示されました。また、本年度の福岡県教育施策では、

志をもって意欲的に学び、自律心と思いやりの心をもつ、たくましい子ども

の育成をめざし、日常の教育活動において、学ぶ意欲を高めるキャリア教育の充実を図る取組の必要性を示しています。



1. キャリア教育のねらい

◇キャリア教育とは・・・

子ども一人一人のキャリア発達を支援し、それぞれにふさわしいキャリアを形成していくために必要な意欲・能力や態度を育てる教育

◇上の定義をもとにキャリア教育を進めるためには・・・

- ① 発達課題を意識した取組を通して、子どものキャリア発達を支援し、社会人としての自立に必要な能力や態度を育む
- ② 職業的知識や技能の習得だけでなく、望ましい勤労観・職業観の育成を重視するといったねらいをもつことが大切になります。

「キャリア」とは・・・



人が、生涯の中で様々な役割を果たす過程で、自らの役割の価値や自分と役割との関係を見出していく連なりや積み重ね



子どもの社会人としての自立に必要な能力や態度の高まりは、子どもの勤労観・職業観の高まりにもつながり、上の①・②の2つのねらいは相関しています。そのために、子どものキャリア発達の視点から、現在の教育活動を見直し、学習活動の改善をしていくことが大切です。

2. 学びをつくり出すキャリア教育への改善

「学びをつくり出す」とは、児童生徒が自ら課題を見出し、その解決を通して「何を学んだか（学習内容）」と「どのように学んだか（学び方）」を明らかにし、自らの伸びや成長に価値付けし、次の学びに生かすことです。

そこで学びをつくり出す子どもの姿を、次のように設定します。

- 生活や学習上の課題を自ら見出し、見通しをもって課題の解決に取り組む。
- 多様な情報を吟味し、根拠を明確にして判断し、よりよい情報を選択する。
- 今学習していることの意義や自分にとっての価値を見出し、学ぶことへの充実感を味わい、次の学習への意欲を高める。
- 集団の中での自分の役割を理解し、協力して遂行することで自己有用感を味わうとともに、自他のよさに気づき、今後の自分の可能性を実感する。

「キャリア発達」とは・・・



社会の中で自分の役割を果たしながら、自分らしい生き方を実現していく過程

これ

教育力向上福岡県民運動でめざす、「学ぶ意欲」や「自尊感情」を育てることもつながります。

3. 学びをつくり出す4領域8能力

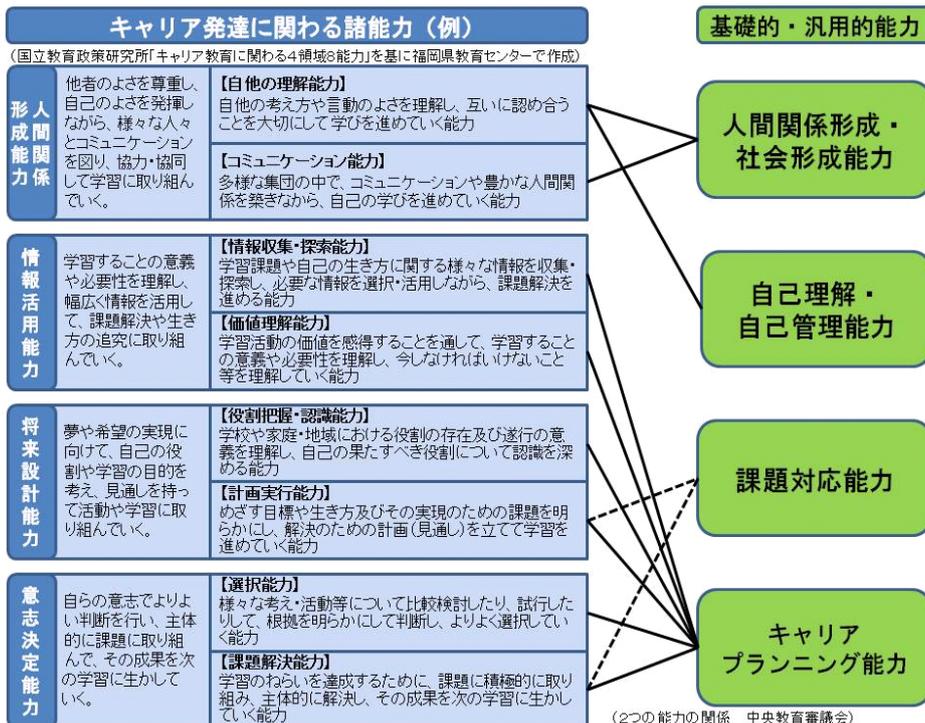
学びをつくり出す子どもの姿をめざすためには、「学びをつくり出す4領域8能力」が必要です。中央教育審議会では、この「4領域8能力」をめぐる諸問題を克服するため、「分野や職種にかかわらず、社会的・職業的に自立するために必要な基盤となる能力」として再構成し、「基礎的・汎用的能力」を提示しました。しかし、右図のように「4領域8能力」と「基礎的・汎用的能力」の両者には、互いに関係性があります。

したがって、各教科等において「基礎的・汎用的能力」を高めることは、「4領域8能力」を高めることと同様と考

えることができます。「4領域8能力」は、子どもの学習の「どのように学ぶか(学び方)」と強く関連しています。よって、今後も各教科等の学習活動を通して「4領域8能力」を高めていくことが大切になってきます。

福岡県教育センターでは、「キャリア発達にかかわる4領域8能力」をもとに、学びをつくり出す視点で「学びをつくり出す4領域8能力」を設定しています。

詳しくは、福岡県教育センターHP (<http://www.educ.pref.fukuoka.jp/>) を御覧下さい。



4. 授業づくりの手順

手順Ⅰ 各学年で、子どもの4領域8能力の実態を把握し、高める能力を重点化します。

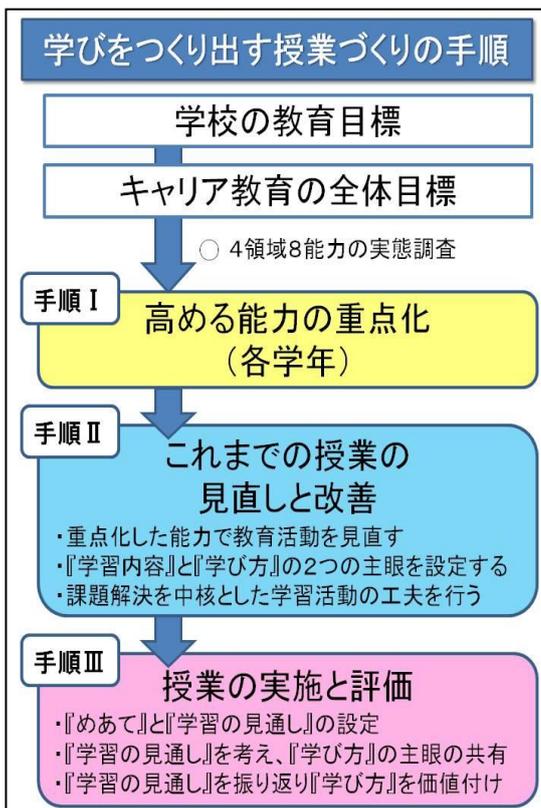
- 各学年で高める能力を重点化するために、
 - ① 子どもの4領域8能力の実態を調査します。
実態調査の分析のためのアンケート用紙・分析ツールは、県教育センターのHPにあります。アクセスして御活用ください。
 - ② 実態調査を分析し、高める能力を重点化します。
 - ③ 重点化した能力が高まった子どもの姿を具体化します。

手順Ⅱ これまでの授業を見直し、重点化した能力を高める学習活動の工夫を考えます。

- 「学び方」に視点をあて、授業では学習活動の工夫を通して重点化した能力を高めていきます。

手順Ⅲ 授業を実施し、「学び方」の評価を行います。

- 従来の『何を学んだか(学習内容)』の評価に加え、『どのように学んだか(学び方)』の評価を行います。



5. 授業づくりの3つのポイント

1 『何を学ぶか（学習内容）』と『どのように学ぶか（学び方）』の2つの主眼を設定します。

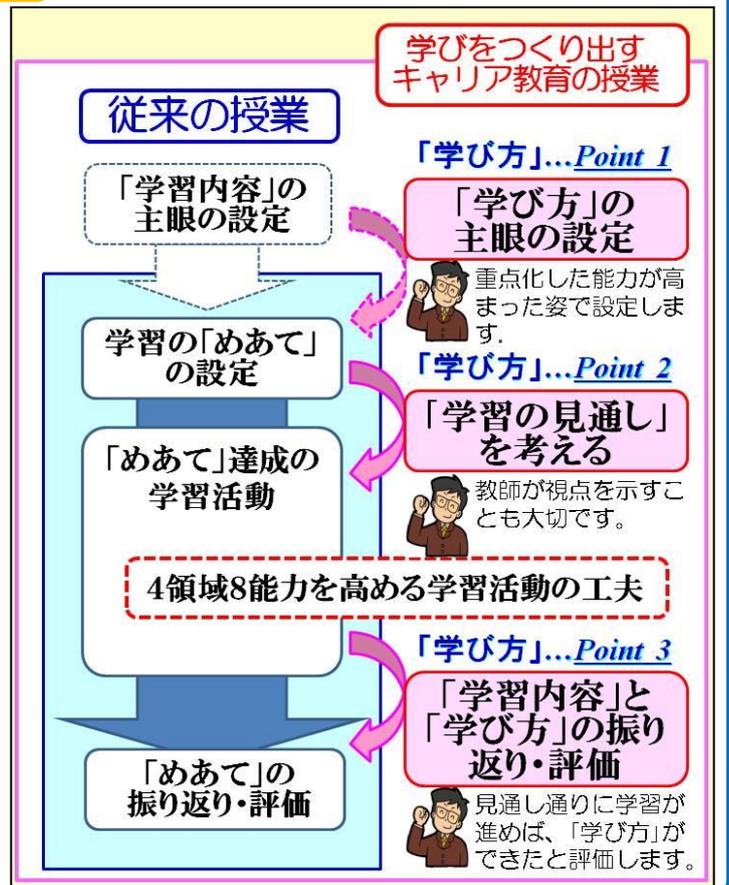
- 重点化した4領域8能力について、その授業で期待する子どもの姿、そのための学習活動の工夫を、教師が授業前に具体的に設定します。

2 「学習の見通し」を考える場面を設定し、「学び方」の主眼を共有します。

- 設定した2つの主眼を、教師だけでなく、子どもも共有する学習場面を設定し、子どもが「学び方」を意識して学習を進めたり、振り返ったりすることが可能になるようにします。

3 授業の終末に3分間程度で行う評価を工夫し、「学び方」を価値付けします。

- 授業の終末に、子どもが「学習内容」と「学び方」の両方を振り返る場を設定し、その内容やよさを教師が振り返った内容に価値付けを加えます。



6. 学びをつくり出すキャリア教育の授業例

この実践は、小学校第5学年の算数科（単元「小数の計算の仕方を考えよう」）で、学習活動や評価活動を工夫した例です

Point1 「学び方」の主眼の設定

4領域8能力の中から【計画実行能力】について重点化し、「学習内容」とともに、「学び方」に関する主眼「課題をよりよく解決するために、学習の進め方の計画を立て、それに沿って解決する」を、設定します。

Point2 「学習の見通し」を考える場面の設定

教師は、「①用いる考え方、②用いる方法、③個人で解決、④より簡単な考え方の比較・検討」の4つの視点を示し、児童に学習の見通しを考えさせます。

Point3 「学習内容」と「学び方」を振り返り・評価する場面の設定

「学習内容」では『だれの』『どの考え方』が簡単であったかを明確にします。「学び方」では『手分けをしてすすめたことのよさ』に焦点を絞って評価を行わせ、机間指導の際に、よさを端的に表現している考え方を記録しておき、効果的な価値付けを図ります。



単位時間における授業を考える際に、特別な授業設計を行う必要はありません。従来の授業の学習活動を基本に、少し工夫を加えるだけで十分なのです。

2つの主眼

- 整数÷整数で商が小数になる計算の仕方を考え、考え方を比較したり、説明したりする。
- [計画実行能力]課題をよりよく解決するために、学習の進め方の計画を立て、それに沿って解決する。

学習活動の工夫

- 線分図等と関連付けて「単位のいくつ分」の考えのよさを説明させる。
- 解決の見通しをもつ場や、その課題解決の過程を比較検討する交流活動の場を位置付ける。

評価活動の工夫

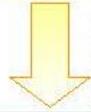
- 「単位のいくつ分」の考えのよさに重点を置き、「だれの」「どの見方・考え方」が、学習を進めたのかを明らかにする評価活動を仕組む。
- [振り返り活動]では、解決過程を自己評価させるとともに、計画を立てて解決するよさについては、教師が価値付けて、よさの一般化を図る。

「計画実行能力」を高める学習活動・評価活動の工夫

- ① 既習事項から必要な見方・考え方を明らかにしどのように問題解決するかを考える。
- (1) 前時との共通点から考え方をを見つける交流活動
 - (2) 複数の方法で試し、簡単な解き方にまとめるための学習計画を作る場の設定



「0.1のいくつ分」で考えれば解けそうだけど、いろいろなやり方があるそうだな。一番簡単な解き方を見つけるにはどうすればいいのかな？

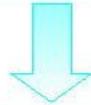


「学習の見通し」

- ① 「0.1のいくつ分」や「mをcmに変えて」などの考え方を話し合う
- ② 言葉の式や線分図などの方法を出し合い、選んで手分けする
- ③ 自分が選んだ方法で解決する
- ④ グループで考えをまとめ、最後に全体でより簡単な解き方にまとめる

- ② 「学習の見通し」に沿って「0.1のいくつ分」の考えをうまく説明できるように、各自で説明の仕方まで考える。

- (1) 「0.1のいくつ分」の考え方を意識できるワークシートの工夫
- (2) 計画に沿った進捗を意識させる発問の工夫



わたしは、線分図を使って説明できそう！○○さんは、式と言葉で説明を考えてくれるのね。



「0.1のいくつ分」の考えを、うまく説明できたわ。線分図ではない人はどう説明しているのかな？



○○さんたちは式と言葉で説明するのに苦労しているようね。線分図での説明はできたから、わたしも考えみよう。

- ③ それぞれの方法で説明し、全体で共通点から簡単な解き方をまとめる。

- (1) 考えの提示・比較がしやすい板書の工夫
- (2) 計画を意識できる「手分け」「考えを合わせる」などのキーワードを含んだ進行・助言の工夫



どの説明も納得はいいわ。それぞれの考えを合わせて、一番簡単な解き方を言うとなると・・・



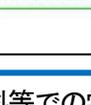
○○さんの解き方は、簡単で分かりやすいわ。みんなで考えた解き方をうまくまとめてくれた。すごい！



手分けして考える計画通りにみんなで頑張ったから、時間内に一番いい考えにまとめられたわ。

- ④ 「めあて」と「学習の見通し」を振り返り、価値付ける。

- (1) 評価シートによる「めあて」と「計画実行能力」の2点からの自己評価
- (2) 意図的指名による発表と、教師の価値付け



手分けする計画を立てて、それぞれが頑張り、みんなのよさを合わせたから、どんな場合にも使える簡単な解き方にまとめることができましたね。



各教科等での学習と、キャリア・カウンセリングを組み合わせることによって、発達の段階に応じた4領域8能力や勤労観・職業観のより一層の高まりが期待できます。

キャリア・カウンセリングを進める際の留意点

- ◇ 日頃から子どもとの人間関係を築いておく → 本音で話せる関係づくり
- ◇ 「聴く」「受け止める」を効果的に活用する → 自己表現の促進
- ◇ 語らせることで、自分で「獲得してきた学習内容や学びのよさ」や「悩みを解決していく方法」に気付かせる → 気付きによる行動の促進

福岡県教育庁教育企画部企画調整課 教育力向上対策室 TEL 092-643-3882
教育力向上福岡県民運動ホームページ <http://www.fukuoka-kenminundou.jp>

※ このリーフレットは、上記ホームページからダウンロードできます。そのまま印刷して配布、学校(園)・学年だよりやホームページ等の一部抜粋・引用して配布、学級懇談会等資料として配布するなどして有効に活用してください。